

さまざまなる形 色彩に妙味

永津貞三氏個展

一月前、東京・上野で個展を開いたばかりの永津貞三さん(琉大講師)が、今度は銀座六丁目のスルガ画廊で、十日から十五日まで近作をそろえた個展を開いた。写真。作品は十五点、キャンバスや板にテンペラと油彩など混合の技法を使った「Genetics」(発生学)と題する



一連の作品、古い浮世絵の切れはしを配合したカラーシュなど。とらえどころのないさまじ

まな形が、黄、白、茶、灰、紫、黒、あるいは藍と組み合わされた画面は、ふと今噂の「バイオマス」という言葉を連想させる。もともと植物資源をエネルギー源、化学原料に利用するという人間の現実的な欲望をかげないで、また有機物の融合や発生の姿に、通りがかりの客が好もしそうに見入っている。

横四近く、縦二近しい明るい大作から、横二十五、縦八十の黒が勝って深みを見せる小品は、七月二十四日から八月五日まで、上野のスペース・ニキで展示したのはまた別の八三、八四年までの作。永津さんは「古い仲間」に二年半沖繩に住んで、案外変わらないといわれる。だんだんに変化していくもので「よう」と語っていた。(東京)

トピックス